

原発がこわい女たちの会
http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/

《 2016年01月 | トップ | 2016年03月 》

検索

2016年02月26日(金)

検索

映画『日本と原発 4年後』をみて

アーカイブ

『日本と原発 4年後』が大阪十三のシアターセブンで上映最終日と聞き、行ってきました。2014年に『日本と原発』が制作されたが(私は見損なった)、これ以降の**高浜原発差止仮処分、元東電役員強制起訴**など大きな出来事、**内部被ばくやテロの問題、推進派の言い分などを新しく入れた改訂版**とのこと。

<http://www.nihontogenpatsu.com/news>
製作・監督/河合弘之 構成・監修/海渡雄一 制作協力/木村結 音楽/新垣隆
脚本・編集・監督補 拝身風太郎 制作/Kプロジェクト

河合弘之・海渡雄一の弁護士コンビの製作・監督・監修ですが、小難しい法律ものでは全然ありませんでした。ただし、河合監督はこの映画の製作意図を、原発問題の事実をビジュアル化した裁判資料として提出して原発裁判にかかわる**全国の裁判官**に納得してもらうことにある、と明言しています。もちろん国民に原発の危険性を浸透さすべく、正面から分かりやすく問いかけることも。脱原発が国民の過半数を占めていても、それが投票行動に反映されない現状を見据えて、ということです。

ほんとうに分かりやすい作品だと思いました。「原子力の平和利用」で原発が導入された歴史、地震大国日本に原発建設することの無謀さ、震災当時の過酷を極めた避難と救助活動、避難生活を送る人々の苦しみ、事故前・後の東電の怠慢と過失、原子カムの利権構造、使用済み核燃料処分と破綻している核燃料サイクル構想、**それでも日本が原発に固執する理由**とは、等々。

それはもうオールラウンドに取り上げ、図表やCGや関係者へのインタビューを用いては理解を助ける。とくに河合監督が手書きのホワイトボードで破綻した核燃サイクルのしくみなど解説していくのは意外性があって出色の出来。ちなみにインタビューには、先ごろ和歌山で講演いただいた**崎山比早子さん**、3月5日に予定の**大島堅一**さんも登場。言うまでもなく、内部被ばくの問題と、安くない原発のコストについてです。

被災者の方からの「フレコンバッグを見てると放射能と心中するしかないのか、再稼働の動きなど自分たちの苦しみは一体何のためだったのか?!」との絞り出すような叫びは、私たちの胸にこたえます。

一方、推進派として登場したのは近藤駿介さん(当時の原子力委員会委員長、現・NUMO理事長)、木元教子さん(元・原子力委員会委員)です。近藤さんは菅首相の要請で「最悪のシナリオ」を著したことで知られています。<http://www.asahi-net.or.jp/~pn8r-fjsk/saiakusinario.pdf> インタビューでは、福島の方には申し訳ない事をしたと謝罪の言はありましたが、「推進の論理」は、正直いってよく理解できませんでした。木元さんにいたっては、「現在の生活レベルを下げたくないから」原発は失くせない、とのことでした。「推進の論理」といえるかどうか？ですが。

これらの合間に効果的に挿入される安倍発言。「福島の汚染水はオーバーコントロール」や「日本の原発は世界最高の安全基準」や「事故の経験を原発輸出に活かす」など欺瞞に満ちた首相発言には、上映会場から思わず失笑そしてため息。

「日本の原発の全ての論点を論じ尽くしました。これを見た人は必ず脱原発を確信するようになります。」河合弘之弁護士の渾身の作であり強い脱原発の意思の作であることがわかります。原発のことをよく知らない人にも、忘れていた人にも、よくわかっている人にも、何よりも原発賛成派の人にも、みてもらいたい映画だと思えます。各地で自主上映やっています。

(sora)

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

2016-02-26 | 記事へ | コメント(0)

2016年02月14日(日)

講演会「電力自由化で何がどう変わるのでしょうか」を開きます

「電力自由化が4月からスタート」のニュースでにぎわっています。※これまで一般家庭ではふつう、電気は地域独占の電力会社から購入するしかなかったのですが、これからは契約先を自由に選べるようになるのです。新しい小売電気事業者(新電力会社)は、通信、ガス、メーカーなどの企業からの参入を含め多数におよび、各社料金メニューや各種サービスを提示しています。

※電力自由化、または電力市場の自由化とは、従来自然独占とされてきた電気事業において市場参入規制を緩和し、市場競争を導入することである。電気料金の引き下げや電気事業における資源配分の効率化を進めることを目的としている。(ウィキペディアより)

これまでの独占体制がくずれ、消費者にとって選択肢が広がってきたことは歓迎すべきなのかもしれません。しかし、電力自由化が原子力発電の将来とどうかかわっていくのかを見極めることが肝要です。

原子力発電をおこなってきたのは、地域独占の北海道、東北、北陸、東京、中部、関西、中国、四国、九州、の9電力(沖縄を除く)と電気の卸会社である日本原電です。さらに使用済み燃料を再処理するために電力会社が共同出資で作ったのが日本原燃ですがその運営経費は(依然として稼働していませんが)私たちの電気料金に上乗せされています。また福島原発事故の損害賠償費用や除染費用は、そのほとんどが電気料金負担に転嫁されています。

政府のエネルギー政策では、原発をベース電源にしようとしていますし、再処理工場は相変わらず稼働させようとしています。これらの問題が、電力自由化でどのように変わっているのか、原発と電力システム改革・エネルギー政策の関係には、分からないことがたくさんあります。原発で作った電気を使いたくない人は、それが選べるのでしょうか？

そこで当会では、環境経済学の立場から原発について研究され「原発のコスト—エネルギー転換への視点」を発信されてきた大島堅一さん(立命館大学教授)を迎えて講演会を開きます。御参加下さい

大島堅一さんについては、このブログでも何回か取り上げさせていただきました。2013年2月のブログ「原発のコスト」では、大島さんの著書『原発のコスト』(岩波新書)『原発はやっぱり割に合わない』(東洋経済新報社 2013)の読後感。2014年6月には「脱原発わかやま」主催で「原発は安い! ? ~ 原発コストはいったいいくらなのか ~」(田辺市内)を講演された時の案内(2014年5月29日ブログ)と報告(7月5日ブログ)などです。またそこにも記していますが、3.11の直前、2011年2月末には「原発がこわい女たちの会」主催で「本当のこと知ろう 原子力のはなし」と題して講演していただきました。

[講演会チラシより](#)

電力自由化で 何がどう変わるのでしょうか 大島堅一氏(立命館大学教授)講演会

日時 3月5日(土) 14:30~16:30
会場 勤労者総合センター文化ホール
(西汀丁34番地 ☎073-433-1800)

◎参加費 300円(資料代) 誰でも参加できます。



◇おおしま・けんいちさんのプロフィール

1967年生まれ。
一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得。経済学博士。
2008年より立命館大学国際関係学部教授
2011年内閣官房国家戦略室エネルギー・環境会議コスト等検証委員会委員などを務める。「原発のコスト— エネルギー転換への視点」(岩波新書 2011年)で第12回大佛次郎論壇賞を受賞。

- 2012年09月(2)
- 2012年08月(2)
- 2012年07月(4)
- 2012年06月(4)
- 2012年05月(3)
- 2012年04月(1)
- 2012年03月(1)

最新コメント

- [日韓の原発事情、国 by 民 守 正義(08/21)
そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)
コメントありがとう by sora (12/05)
突然すみません。東京 by 里美(11/22)
10/26と11/29のチケット by 角谷(10/23)
starさんコメントあり by sora (09/14)
このブログを読むまで by star(09/13)
こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)
現在稼働している大飯 by star(04/09)
廃炉産業を起こしてほ by kaziharayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2016年02月 >						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

最新記事

- 琵琶湖が危ない 老朽原発美浜3号も廃炉に! 11・13
琵琶湖集会(11/15)
汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)
原発がこわい女たちの会
ニュース99号発行(10/12)
高速増殖炉もんじゅ廃炉へ(09/27)
老朽原発・美浜3号機は廃炉に! パブコメを出そう(08/28)
ピースボートで韓国古里(コリ)原発を見学してきました(08/21)
熊本地震の経験から原発の耐震性見直しを要求し、25団体で共同声明を出しました(07/22)
老朽原発・関西広域連合へ要望書と和歌山県との話し合い(07/17)
原発のない社会を投票で示そう!(07/05)

原発がこわい女たちの会
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

[トップ](#)
[記事の投稿](#)
[管理](#)
[RSS](#)
[ログアウト](#)

4月から始まる新サービスの宣伝が始まっています。「電力自由誘にワナ」とのマスコミ報道もあります。あなたは大丈夫ですか？

- ◎この4月からの電力小売り全面自由化で、電気の使用料が安くなるの？
 - ◎原発で作った電気は使いたくないけど、それが選択できるの？
 - ◎毎月電気料金から引かれている再エネ促進還付金はどうなるの？
 - ◎2020年に無くなる総括原価方式との関係は？
- ◇主催 原発がこわい女たちの会：連絡先松浦(073-451-5960)

● 前回のブログでリンク出来ないなどの問題が一時的に生じ、ご迷惑をおかけいたしました。管理人のPCソフト不具合によるものですが解決しました。

BLOGariは2017年1月末
サービス終了します2016-02-14 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

2016年02月06日(土)

低線量被ばくについて学びました

先月17日に行われた崎山比早子さんの講演会「身近な放射線と健康被害について」に参加しました。寒い日でしたが60人近い参加がありました。



低線量被ばくについて、きちんと学びたいと思っていましたので、今回はその好機となりました。なお、低線量とは、概ね100ミリシーベルト(以下、mSv)以下を指し、被ばくしてから数年から数十年して影響の現れる晩発性障害を引き起こす可能性があります。東電福島原発事故の後、福島では一度に高線量を浴びて死に至ったというような急性障害の事例は明らかにされていません。しかし、今後長期にわたって発がん等のリスクが増加するのは

避けられないといわれています。
以下、主な論点について感想を交えながら挙げてみます。

●医療被ばくのリスクは看過できない

放射線は、目には見えない、臭いもしない存在。私たちが日常生活で(福島とは遠く離れて)、あらためてそれを意識するのはレントゲン検査であろう。崎山さんは放射線医学の専門家である。まずレントゲンやCTなど医療被ばくの問題について聴く。

これらは重大な疾病の検査や治療にとって必要な場合もあるが、日本の医療現場では過剰に使用される傾向にあり、検査による被ばくは世界最大というから驚く。ふつう、健康診断や歯の治療に多少の躊躇はあっても受け入れられているし人間ドックも然りだ。とくに被ばく線量の大きいCT検査など要注意だ。身近な医療放射線に対して、もっと自覚的でありたい。

放射線照射による利益がリスクを上回ること(正当化)、その際なるべく低線量で効率的に行うこと(最適化)の2つが前提条件である。近年、処方薬を記録する「おくすり手帳」が普及したが、同じように、「医療被ばく手帳」を活用してチェックすることも有益だと学んだ。

南相馬の住民による「20ミリ基準撤回訴訟」なども起こされているが。
<http://www.foejapan.org/energy/news/150614.html>

●低線量被ばくによる疫学調査で発がん性を証明

そもそも「100mSv以下の被ばくでのがん発症の増加は証明されていない。がん以外の疾患は認められない。放射線よりそれを心配する精神的ストレスの方が有害」と政府は放射線のリスクを過小評価している。しかもそれは、意図的な過小評価。「僅かな放射線を恐れて原子力の需要が進まず、…日本の前途が危くなる」ので「人々を恐がらせない」ことが重要だというわけで、事故以前から文科省や電力会社は、教育の場などを利用して原子力促進キャンペーンを行ってきた。
 NPO・文科省：放射線教育フォーラム2003年
http://www.ref.or.jp/book/book_separate_200403.pdf#search=%27%E6%94%BE%E5%B0%84%E7%B7%9A%E6%95%99%E8%82%B2%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%A0+2003%E5%B9%B4%27
 「(P.3)特に小・中・高校の学校教育において放射線・放射能の正しい知識やエネルギー問題の教育、広くは理科教育全般を改善し充実させることに重点を置いて、次のようなさまざまな活動を行っています」
 「(P.7)低レベル放射線影響をいかに理解し、教えるかの検討
 これは放射線教育における最も重要な命題であります。今日では、放射線・原子力の利用は市民生活になくはならないものとなっていますが、一般市民の間には放射線の人体影響について過度の不安感があり、放射線や原子力の恩恵を十分に享受できない原因となっています。」

しかし崎山さんによれば、国内外の最新研究では低線量被ばくによる発がんが、疫学調査によって証明されるようになったとのこと。「原爆被爆者の寿命調査 第14報」2012(87,000人)や「オーストラリアにおける青少年CT検査と発がん」2013(680,000人)、「スイス自然放射線と小児がん」2015(200万人)などの例を示された。
 「科学的に証明されていない(から安全)」、などと「科学」の語を借りたごまかしはできない。

●福島原発事故では安定ヨウ素剤が役に立たなかった

甲状腺は身体の代謝、成長、成熟に必須の甲状腺ホルモンを産生する器官。この甲状腺ホルモンを作るのにヨウ素が必要であるが、放射性ヨウ素も取り込む。これを阻止するために、事故時環境に放出された放射性ヨウ素を取り込む前に安定ヨウ素剤を服用する。そのタイミングは、早すぎてもダメだが8時間後では効果は40%へ低減するなど一刻を争うもの。

福島では、その情報が事前も事後もなく備蓄も配布もされてなかった。服用指示の伝達が途切れた、市町村長が副作用を恐れた、配布場所が限られていた、配布量が少なかった、と悪い事が重なり、結局県下で配布できたのは1自治体のみ(三春町)。震災時大混乱のさなかとはいえ、防災の備えが皆無だったことが明らかだ。日常からの周到的な訓練、情報が必要なことは誰にでもわかるのに。福島では、結果的に子どもの甲状腺がんを多発させることになった。政府は認めていないが、なおヨウ素剤服用による副作用や後遺症の問題が流布しているが、その心配は殆どないとのことだ。

注:「避難計画を案ずる関西連絡会」が関西電力高浜原発30^号圏の市町に実施した安定ヨウ素剤保管・配付に関するアンケートでも、実効性がないとの結果が出ている。
http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/i_questionnaire151211.pdf

●食品汚染と内部被ばくについても

食品については現在年間1mSvを目安に放射性セシウムの基準値が決められており、現在さほど多くはなくなっているようだ。しかし野生の動植物や淡水魚などには注意が必要。またこれは放射線源が体の内にある場合で、線源が体の外にある外部被ばくとは別ということに留意する必要がある。環境省発行のPRパンフには「体内に取り込まれたセシウムは体外に排出されていく。この生物学的半減期は代謝のさかんな子どもの方が大人より早い」などとある。
http://josen-plaza.env.go.jp/nasubinogimon/pdf/nasu-gimo_vol2_2pver.pdf?20150723

しかし、これも1回のみでの排出機能をみたもので現実的でない。食べ物は毎日摂取するものなので放射性物質は体内で蓄積されていくとしなければならぬ。慢性的摂取を避けるために遠隔地に一時的でも保養することが有意義、ということも納得だ。

注:後の質疑で、参加者から和歌山の学校給食の汚染の懸念が出されたが、これに対しては、「子ども未来の会」が昨年和歌山市との話し合いで得られた情報として、会の代表から補足された。

●これからの課題

「一人一人が判断力をつけること」の重要さを強調して崎山さんは講演を締めくくられた。明快に市民の側に立って、遺伝子レベルからの専門的な知見をも懇切丁寧に話しただけ、詳細かつ多岐にわたる内容でとても濃密な2時間でした。(上記のまとめではとてもおっつかない)

後の質疑応答も熱心におこなわれた。その中でも若い男性の質問は注目された。「AかBか、どっちの情報が正しいのか見分ける方法がありますか？」というもの。「おいおい、マニュアル世代君、そんなこと自分で見たり読んだり考えて見分けるものだよ」と内心、突っ込みみたくなった。が、すぐに、彼の言い分も無理ないな、と思った。
これだけ圧倒的な安全キャンペーンと原発再稼働の掛け声が加速する中で、ほんとうのところはどうなのか、大勢の言質に従うのではなく自立して考えるのは容易なことではない。
崎山さんの答えは「安心して、といわれたら要注意です」…なるほど。

放射線の健康被害について福島での日本の政策が、世界の常識に沿うものであるか、子どもたちの未来を考えているのか。その嘘と妄言に惑わされないために、福島原発事故のこと放射線のことをきっちりと知る必要がある。これからも一人ひとりが学び続け、行動していくことが求められる。

注: 講演のネット配信が予定されていましたが、撮影機器の不調で実現しませんでした。前日の16日に岡山弁護士会で近い内容で講演されたものがIWJより配信されています。 <http://iwj.co.jp/wj/open/archives/282618>

■ 崎山比早子さん+高木学校の図書紹介

(原発がこわい女たちの会でも取り扱っています)

① レントゲン、CT検査 医療被ばくのリスク ちくま文庫 (2014) ￥900

② 母と子のための被ばくの知識—原発事故から食品汚染まで—
新水社 (2011) ￥1300



2016-02-06 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

RSS 2.0